

月刊 Handada

月刊

花田紀凱責任編集

8月驟雨号



8

令和7年
8月
2025年8月1日発行
(毎月1回26日発売)
通巻111号

現場
からの

自民党改造計画

青山繁晴

河井あんり 独占インタビュー

私が見た
天国と地獄

命日に思う

安倍さんの底知れなさ

小川榮太郎

安倍さんを思い出さない日は

阿比留瑠比



れいわ新選組のハラスメント地獄

榎田信衛門

「代々木の不動産王」日本共産党

山村明義

山尾志桜里と無理心中、国民民主党

坂井広志

小泉進次郎

コメの責任は
すべて私に取ります



夏野剛に問う

無法ニコ動で
大金稼ぎ

飯山 陽

医師の殺人を実名告発

東大医学部にモラルは無い

坂本二哉



月刊 Handada

月刊

花田紀凱責任編集

7月露草号



7

令和7年
7月
2025年7月1日発行
(毎月1回26日発売)
通巻110号

堀江貴文×河井克行

検察の恐さ、
一から教えよう



岐路に立つ刑事司法制度 高井康行

玉木を担ぐ

ないか
問答

堤 堯・久保紘之

長谷川幸洋

トランプ関税 石破政権失敗の本質

池田良子

赤いきつねと赤いネットワーク

和田秀樹×川田龍平

レプリコン
ワクチンと製薬会社

ロアトキンソン

消費減税、玉木代表は
経済学を学び直せ！



戦慄の東大病院

患者は
実験材料

坂本二哉

東大元教授

患者は
実験材料

坂本二哉

東大元教授



常識の革命 日本版

小川榮太郎

私の80年談話

竹田恒泰

若き仲間たちへ

連載第04回

強運を信じて、笑顔で

高市早苗



スト等）も受けていたのです。

私がパナソニック（旧松下電器産業）の創業者である松下幸之助氏（故人）に初めてお目にかかったのは、

大学四年生の夏でした。

すでに安定した就職先から試験合格通知をいただいていた時期でしたが、大学の廊下に貼ってあった「松下政経塾 塾生募集」のポスターを見て、若者に囲まれた松下幸之助塾長の優しそうな笑顔の写真に魅かれ、他の就職試験と併行して、松下政経塾の一次選考（筆記）、二次選考（論文・英語ヒアリング・討論・体力テスト）

最終試験となる三次選考が、東京のホテルニューオータニで実施された松下塾長による面接でした。

メーカー勤務だった父は、「経営の神様」と呼ばれた松下幸之助氏の大ファンで、多くのご著書を読み込んでいました。私が三次選考に残ったことを喜び、上京直前の私に、「早苗、とにかく運の良さそうな明るい顔をしているよ」と意味不明のアドバイスをしてくれました。

私は、生まれて初めて有名なホテルニューオータニに行けることと、ポスターで拝見した松下塾長の笑顔に

出会えることが楽しみで、いそいそと上京したものでした。

憧れのホテルに到着し、意気揚々と面接会場に入った私は、いきなり疎み上がったしまいました。広い部屋奥には、松下政経塾役員に囲まれた松下塾長が座っておられました。想像していたよりも小柄で痩せた方でしたが、眼鏡の奥の眼光是恐ろしいほどに鋭く、ニコリともされずにジッと私の顔を睨み付けておられるのです。それまで人前で緊張することなど無かった私が、松下塾長の眼光に圧倒され、自分をアピールするどころかほとんど喋れないままに時間が経過してしまいました。最後に松下塾長が口を開きました。

「あんた、ほんまに五年間辛抱でけるか」。声を絞り出すようにして「はい」と返事をしたような記憶があります。

す。

肩を落として面接会場を出た私に、松下政経塾の職員がポラロイドカメラを向けました。子供の頃から母に「写真を撮る時には笑顔でね」と言われていましたので、反射的にニコッと笑って写真に納まりました。

思いがけず合格通知を受け取って驚きましたが、のちに松下政経塾の職員から伺った話で謎が解けました。

松下塾長は、リーダーの要件として、「運の良さそうな顔」と「愛嬌のある顔」を挙げておられたとのこと。

一次選考と二次選考で学力や体力や政治経済の課題意識は判定できている、三次選考の目的は、「松下塾長が、受験生の『顔』を見ること」だったのだそうです。面接直後に職員が撮った写真は、その夜、ホテルのベ

ッドの上に並べられ、松下塾長が指差しながら合格者を決めたのだと聞かされました。結局、ニコッと笑った写真で選ばれたわけです。

「私は運が良い」

一九八二年三月、松下塾長は、先輩塾生たちに次の話をされました。

「松下政経塾設立の念願は何であるかと言うと、日本の健全な発展です。伝統のうえに健全な発展を求めていきたいということを考え、その考えに基づいて、政経塾は経営されています。諸君もそのつもりで、それに相応しい運命の持ち主であることを、心から信じてやってもらいたいと思います。諸君の運命は、墜落する飛行機に乗るような弱いものはありません。墜落しても助かるような、強い運命を持っているという

ことです」

困難な状況に直面しても「成長できる試験を与えてもらえて、私は運が良い」と割り切れるのは、松下塾長のお陰かもしれません。運転免許証更新時の写真撮影では毎回「笑わないで下さい」と叱られています。

株式会社フォーシーズの浅野秀則

代表も、リーダーとしての心構えを「明朗性、行動力、メンタル管理ができること。自分が落ち込んだら、部下と一緒に落ち込んでしまう」「夢を語れること、声の大きさは自信の裏返し」と語っておられます。

若い皆様、自らの強運を信じて、笑顔で、夢を叶えて下さいね！

たかいちさなえ

衆議院議員（十期）自民党政務調査会長（三期）、総務大臣（五回任命で史上最長在職期間を記録）、経済安全保障担当大臣（二回任命）などを歴任。著書に「日本の経済安全保障」飛鳥新社 など。

若き仲間たちへ

連載第05回

高市早苗



「君子は豹変す」の勇氣

先月に紹介した松下幸之助氏や浅野秀則氏の考え方から、私が学び、政治家として行動するうえで参考にしていることがあります。

一九九五年の刊行時に読んだ古い本ですが、松下正治氏の手による『松下幸之助とともに50年／経営の心』に、松下幸之助氏の面白いエピソードが紹介されていました。

松下正治氏は、松下幸之助氏の娘婿で、松下電器産業（現パナソニック）の二代目代表取締役社長、取締役会長、取締役相談役名誉会長を歴

任された方です（二〇一二年他界）。

正治氏のご著書によると、松下電器産業の社内ではいろいろ検討を重ねて、幸之助氏も「これでいこう」と納得して決定された方針なのに、翌朝になって、「昨日あのように決めただけだなあ」と言い出されることがたびたびあったそうです。

反発して文句を言った正治氏に対して幸之助氏が返した言葉は、「君子は豹変す」や」でした。

幸之助氏は、考え抜いて結論を出したあとも、実行に移す直前まで「本当にこれで良いのか。もっと良い結論はないのか」と考え続けていたとい

うのです。「これは『優柔不断』ではなく『熟慮』だ」と、正治氏は評価しておられました。

フオーシーズの浅野秀則代表も、「朝令暮改」を恐れないということでした。「方針に一貫性がない」と部下が戸惑うことよりも、「むしろ、誤りであると解った方針を翌日まで続けることのほうが、私は怖い」という浅野氏の言葉からは、ビジネスの世界の厳しさが窺えます。

辟易したこと

私は、国家の運命を左右する国家経営のトップにこそ、時には「君子は豹変す」「朝令暮改」と言い放てる勇氣が求められると考えています。

国政の場に居ますと、激しい議論の末の法改正によって改善されたはずの制度であっても、実際に施行し

てみると多くの問題点が見えてくるといったことがたびたびあります。

たとえば、衆議院に「小選挙区比例代表並立制度」を導入した『改正公職選挙法』は、激論と大混乱の末に成立した法律でしたが、一九九六年の衆議院選挙で初めて実施されると、数々の問題点を痛感しました。

私が初当選した一九九三年の衆議院選挙は「中選挙区制度」で、広い奈良県全県が選挙区でしたが、定数は五名。私の得票率は僅か二割弱でしたが、無所属でもトップ当選が可能でした。五分の四の有権者に嫌われ

ても良いと考え、国家のために必要だと確信する主張を展開しました。「お金のかからない選挙」を目指す「小選挙区制度」になり、選挙区面積は小さくなりましたが、一名しか当選できません。仮に対立候補が一名

の場合は、五一%の得票率を目指します。小さな自治会単位の懇親会で廻る週末が始まりました。委員会や本会議をサボって選挙区のご葬儀に参列し、早朝の駅頭で挨拶をする議員が高く評価される風潮には辟易しました。真面目に国政に没頭していると、落選です。何より、「有権者に嫌われない」「風に乗れる」政策を語る議員が増えたと感じました。

かき消された声

一九九七年に、自民党内に中選挙区制度に戻す検討会を創りました。が、「たった一度しか実施していないのに、選挙制度を再変更するのはおかしい」というマスコミの指摘や世論に、再考の必要性を訴える議員たちの声はかき消されてしまいました。

後年にも、「ゆとり教育」の見直し

方針を示された文部科学大臣に対して、「コロコロ方針を転換されては、現場が混乱する」との批判報道が多く見られました。近年は「郵政民営化」の修正も必要になっています。いまは、食料安全保障やエネルギー安全保障の確立に向けた転換期です。

未来への責任を担う国家経営のトップは、熟慮熟考のうえで方針転換の必要性に気付いた時には、一時的な批判を恐れず堂々と「豹変」し、その理由を率直に国民の皆様説明できる「君子」であっていただきたいと願います。

たかいちさなえ
衆議院議員（十期）自民党政務調査会長（三期）、総務大臣（五回任命で史上最長在職期間を記録）、経済安全保障担当大臣（二回任命）などを歴任。著書に『日本の経済安全保障』（飛鳥新社）など。